



インストール

- [Cisco Prime License Manager のインストール前のタスク, 1 ページ](#)
- [インストール用の情報の収集, 1 ページ](#)
- [仮想マシンのインストール, 6 ページ](#)
- [Cisco Prime License Manager のインストール, 6 ページ](#)
- [Cisco Prime License Manager の削除, 8 ページ](#)

Cisco Prime License Manager のインストール前のタスク

インストール前のタスクをすべて実行して、Cisco Prime License Manager を正常にインストールできるようにします。

手順

- ステップ 1** システム要件を確認し、アプリケーションをホストするサーバに十分なリソースがあることを確認します。
 - ステップ 2** 現在のリリースに推奨される Cisco Prime License Manager 仮想サーバテンプレート（OVA ファイル）を使用して仮想マシンを作成します。
 - ステップ 3** VMware の導入には NTP サーバが必要なため、NTP サーバがアクセス可能であることを確認します。
 - ステップ 4** Cisco Prime License Manager に使用する予定のホスト名とアドレスがネームサーバに登録されていること、および前方参照と逆引き参照が両方とも可能であることを確認します。
-

インストール用の情報の収集

次の表に従って、お使いのシステムおよびネットワークに関連する情報を収集します。

表 1: サーバの設定データ

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
タイムゾーン	ローカルタイムゾーンおよびグリニッジ標準時 (GMT) との時差を指定します。 マシンが設置されている場所に最も近い時間帯を選択します。	可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。 <code>set timezone</code> 現在のタイムゾーン設定を表示するには、次の CLI コマンドを使用します。 <code>show timezone config</code>
MTU サイズ	MTU (Maximum Transmission Unit) は、このホストがネットワークで転送する最大パケットをバイト単位で表します。 使用するネットワークの MTU サイズをバイト単位で入力します。ネットワークの MTU 設定が不明な場合は、デフォルト値を使用します。 デフォルトでは 1500 バイトが指定されます。	可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。 <code>set network mtu</code>
DHCP	Cisco Prime License Manager にはスタティック IP アドレスが必要です。したがって、[DHCP] オプションに対して [いいえ (No)] を選択し、ホスト名、IP アドレス、IP マスク、ゲートウェイを入力することを推奨します。	不可。インストール後、エントリを変更してはなりません。
ホスト名	サーバに対する一意のホスト名を入力します。 ホスト名は最大 32 文字で、英数字とハイフンを使用できます。ただし、最初の文字をハイフンにすることはできません。	可。インストール後、エントリを変更できます。 <code>set network hostname</code> (注) タスクの実行中には、ホスト名を変更しないでください。

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
IP マスク	このマシンの IP サブネットマスクを入力します。	可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。 <code>set network ip eth0</code>
ゲートウェイ アドレス	ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを入力します。 ゲートウェイがない場合も、このフィールドを 255.255.255.255 に設定する必要があります。 ゲートウェイがないと、Cisco Prime License Manager はサブネットの外側と通信できないため、電子履行を使用できません。	可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。 <code>set network gateway</code>
DNS 有効	DNS サーバがホスト名を IP アドレスへ、または IP アドレスをホスト名へ解決します。 [はい (Yes)] を選択して、DNS を有効にします。これにより、電子履行が正常に機能します。	不可。インストール後、エントリを変更してはなりません。
DNS プライマリ	プライマリ DNS サーバとして指定する DNS サーバの IP アドレスを入力します。IP アドレスは、ドット付き 10 進表記 (ddd.ddd.ddd.ddd) で入力します。	可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。 <code>set network dns</code> DNS とネットワーク情報を表示するには、次の CLI コマンドを使用します。 <code>show network eth0 detail</code>
DNS セカンダリ (省略可能)	オプションのセカンダリ DNS サーバとして指定する DNS サーバの IP アドレスを入力します。	可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。 <code>set network dns</code>

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
管理者 ID	Cisco Prime License Manager の CLI へのセキュア シェル アクセスに使用する OS 管理者アカウントのユーザ名とパスワードを指定します。	不可。インストール後、エントリは変更できません。 (注) インストール後、管理者アカウントを追加作成することはできますが、元の管理者アカウントユーザ名は変更できません。
OS 管理者パスワード	CLI へのセキュア シェル アクセスに使用する、管理者アカウントのパスワードを指定します。 このパスワードは、 adminsftp ユーザが使用することもできます。 adminsftp ユーザは、ローカルバックアップファイルへのアクセスやサーバライセンスのアップロードなどに使用します。 強力なパスワードに関するガイドラインについては、該当するパスワードセクションを参照してください。	可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。 <pre>set password user admin</pre>
証明書パラメータ	リストから、インストールに適切な組織、部門、場所、都道府県を選択します。 (注) このフィールドを使用して、複数の組織ユニットを入力できます。複数の組織ユニット名を入力するには、各エントリをカンマで区切ります。カンマを含むエントリは、エントリ内のカンマの前にバックslashを入力します。	可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。 <pre>set web-security</pre>

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
NTP サーバ	<p>同期する 1 台または複数のネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。</p> <p>最大 5 台の NTP サーバを入力できます。</p> <p>(注) 発生する可能性のある互換性の問題、精度の問題、およびネットワーク ジッターの問題を回避するには、プライマリ ノードに指定する外部 NTP サーバが NTP v4 (バージョン 4) にします。IPv6 アドレッシングを使用している場合は、外部 NTP サーバが NTP v4 である必要があります。</p>	<p>可。インストール後、エントリを変更できます。</p> <pre>utils ntp server</pre>
セキュリティ パスワード	<p>セキュリティ パスワードを入力します。</p> <p>このパスワードは、6 文字以上の英数字にする必要があります。パスワードにはハイフンおよび下線を使用できますが、先頭は英数字にする必要があります。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。</p> <pre>set password user security</pre>
Cisco Prime License Manager アプリケーションアカウントのユーザ名	<p>Cisco Prime License Manager の GUI へのログインに使用する Cisco Prime License Manager アプリケーションアカウントのユーザ名を指定します。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。</p> <pre>license management change user name</pre>
Cisco Prime License Manager アプリケーションパスワード	<p>Cisco Prime License Manager の GUI へのセキュア シェル アクセスに使用する Cisco Prime License Manager アプリケーションアカウントのパスワードを指定します。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。</p> <pre>license management change user password</pre>

仮想マシンのインストール

仮想マシンをインストールするには、次の手順を使用します。また、VMware のマニュアルを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** ソフトウェアダウンロードセンターにアクセスし、[ダウンロードホーム (Downloads Home)]> [製品 (Products)]> [クラウドおよびシステム管理 (Cloud and Systems Management)]> [Collaboration および Unified Communications Management (Collaboration and Unified Communications Management)]> [Cisco Prime License Manager] を選択して、目的のリリースの Cisco Prime License Manager OVA テンプレートをダウンロードします。
- ステップ 2** vCenter または vSphere クライアントから、新しくダウンロードした仮想マシンテンプレートのコンソールを開きます。
- ステップ 3** vCenter または vSphere クライアントから [ファイル (File)]> [OVF テンプレートの導入 (Deploy OVF Template)] を選択します。
- ステップ 4** [OVFテンプレートの導入 (Deploy OVF Template)] ウィザードに従って、Cisco Prime License Manager 仮想マシンを作成します。
インストールが完了すると、新しくインストールされた仮想マシンが vCenter または vSphere クライアント内の選択した場所に表示されます。
-

Cisco Prime License Manager のインストール

はじめる前に

仮想マシンのインストール

手順

-
- ステップ 1** シスコの電子ソフトウェア配信から ISO インストール ファイルをダウンロードするか、注文品に付属している DVD を探します。vCenter または vSphere クライアントを使用して、ホストのデータストアに ISO イメージをコピーします。
- ステップ 2** vCenter または Sphere クライアントを使用して、[仮想マシン設定の編集 (Edit virtual machine settings)]> [ネットワークアダプタ1 (Network adapter 1)]> [MACアドレス (MAC Address)] を選択します。
- ステップ 3** [手動 (Manual)] オプションを選択し、一義的な MAC アドレスを入力します。

Cisco Prime License Manager のスタンドアロン インストールには、スタティック MAC アドレスだけが仮想マシンでサポートされています。

- ステップ 4** [CD/DVD ドライブ 1 (CD/DVD Drive 1)] を編集します。[電源投入時に接続 (Connect at power on)] を選択し、保存されている場所 (データストア、または物理 DVD を使用する場合はホスト デバイス) から ISO インストール ファイルを選択します。
- ステップ 5** vCenter または vSphere クライアントから、仮想マシンのコンソールを開きます。
- ステップ 6** 仮想マシンの電源をオンにします。インストールが自動的に開始されます。
- ステップ 7** ISO ファイルを使用する場合は、[検出されたディスク (Disc Found)] 画面で [スキップ (Skip)] をクリックして、インストール前のメディアテストをスキップします。それ以外の場合は、[OK] タブを選択して Enter キーを押し、インストール前のメディアテストを開始します。[メディアが見つかりました (Media Found)] 画面に、「ローカルインストールメディアが見つかりました (Found local installation media)」というメッセージが表示されます。
- ステップ 8** [製品展開の選択 (Product Deployment Selection)] 画面が表示されます。製品を選択し (選択可能な製品が 1 つのみの場合もあります)、[OK] をクリックしてインストールを続行します。
- ステップ 9** [Yes] をクリックします。
- ステップ 10** インストールを続行するには、[Proceed] を選択します。
- ステップ 11** [続行 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 12** [タイムゾーン設定 (Timezone Configuration)] 画面で、タイムゾーンを選択して [OK] をクリックします。
- ステップ 13** [自動ネゴシエーションの設定 (Auto Negotiation Configuration)] 画面で、[続行 (Continue)] を選択します。
- ステップ 14** OS デフォルトの MTU サイズを変更するかどうかを尋ねられたら、[いいえ (No)] をクリックして続行します。
- ステップ 15** ネットワーク設定では、[いいえ (No)] を選択して、ノードのスタティック ネットワーク IP アドレスを設定します。
- ステップ 16** 次のスタティック ネットワークの設定値を入力します。

- ホスト名 (Host Name)
- [IP アドレス (IP Address)]
- IP マスク (IP Mask)
- GW アドレス (GW Address)

[OK] をクリックします。ステップ 14 に進みます。

- ステップ 17** [DNS クライアント設定 (DNS Client Configuration)] 画面が表示されます。DNS を有効にするには [はい (Yes)] をクリックしてから、DNS クライアントの情報を入力して [OK] をクリックします。
- ステップ 18** 管理者のログイン情報およびパスワード情報を入力します。
- (注) 管理者ログインは、先頭がアルファベットで 6 文字以上必要です。英数字、ハイフン、およびアンダースコアを使用できます。コマンドライン インターフェイスにログインするには、管理者ログインが必要です。

ステップ 19 [認証情報 (Certificate Information)] ウィンドウが表示されます。証明書情報を入力します。

- Organization
- 部門
- 参照先
- 州/都道府県
- 国 (Country)

[OK] をクリックして続行します。

ステップ 20 [ネットワーク タイム プロトコルクライアント設定 (Network Time Protocol Client Configuration)] 画面が表示されます。NTP サーバ情報を入力します。

(注) DNS クライアントが有効になっていない場合は、IP アドレスを使用します。DNS が有効な場合は、ホスト名または IP アドレスを入力できます。

[OK] をクリックして続行します。

ステップ 21 要求に応じて、セキュリティパスワードを入力します。[OK] をクリックして、先へ進みます。

ステップ 22 [アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] 画面が表示されます。ユーザ名とパスワードを入力し、Cisco Prime License Manager にログインします。[OK] をクリックします。

ステップ 23 [プラットフォーム設定の確認 (Platform Configuration Confirmation)] 画面が表示されます。[OK] をクリックして設定を完了し、インストールを開始します。

インストールが完了するのに約 30 分かかります。

(注) インストールエラーがある場合、コンソールは必要に応じて USB キーにインストールログをエクスポートするように指示します。

Cisco Prime License Manager の削除

共存配置では、使用していない Cisco Prime License Manager を削除することができます。たとえば、Cisco Unified Communications Manager のクラスターでは、Cisco Prime License Manager はパブリック ノードとサブスクリバノードにインストールされています。すべてのノードのライセンスを管理するために Cisco Prime License Manager をアクティブにする必要があるのは単一のノードのみであるため、Cisco Prime License Manager が非アクティブな状態になっているノードからは削除することができます。



(注) サーバに関連するすべてのサービスに影響を及ぼすために、システムのリブートが必要になります。Cisco Prime License Manager の削除は、オフピーク時に行うことを推奨します。

Cisco Prime License Manager を削除した後も、アプリケーションへのログイン時に Cisco Prime License Manager へのリンクが引き続き表示されますが、Cisco Prime License Manager にアクセスを試みると日付と時刻のスタンプとともに削除が通知されます。

**注意**

Cisco Prime License Manager を削除後に復元することはできません。

手順

-
- ステップ 1** コマンドラインインターフェイスから次のコマンド、**license management system remove** を入力します。
- Cisco Prime License Manager がすでに削除されている場合は、このコマンドを利用できないことに注意してください。
- ステップ 2** **y** と入力し、削除を続行することを確認します。
- ステップ 3** システムのリブートを実行します。
-

